

合 掌

春暖の候、皆様には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

すこやかに育ち行けと願い今なお忘れ得ぬ愛しい子達の

令和8年年春彼岸会合同慰霊祭日程のお知らせをさせていただきます。

・期日 3月20日(春分の日) ・読経開始午前十一時と午後二時の二回

・期日 3月22日(日) ・読経開始午前十一時と午後二時の二回

(天候不順の場合は電話にてお問い合わせ下さい)

お参り時間 午前八時～午後五時まで開園しております。

お塔婆料 2,000円より三種

供養料 ご予算の範囲内で

何卒皆様のご参列を心よりお待ちしております。



春分

二十四節気のひとつ「春分」は、昼と夜の長さがほぼ同じになり、この日を境に昼間の時間が長くなっていきます。「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」という国民の祝日でもあります。

春分の日前後3日間、合計7日間は春の彼岸(春彼岸)といい、

先祖の墓参りをする習慣があります。仏教では、あの世は西に、

この世は東にあるとされ、太陽が真東から昇って、真西に沈む

春分の日と秋分の日、あの世とこの世が最も通じやすい日と考えられ、

春と秋の彼岸にお墓参りをするようになったのです。

彼岸のお供え物といえば「ぼたもち」と「おはぎ」ですが、漢字で書くと

「牡丹餅」「御萩」となり、春は牡丹、秋は萩と、季節の花にちなんだ名前と呼ばれています。

また、餡の材料となる小豆は秋に収穫されるので、秋のおはぎには

小豆を皮ごと用いた粒餡が用いられ、春のぼたもちには固くなった

小豆の皮を取ったこし餡が用いられました。いまでは、

いろいろとアレンジされたぼたもちやおはぎがあります。



彼岸といえばお墓参りが頭に浮かびますが、彼岸はインドなど他の仏教国にはない

日本だけの行事です。日本では、神仏両方を共にまつるという風土があるので、

太陽神を信仰する「日願」と仏教の「彼岸」が結びついたからという説があります。

また、春の種まきや秋の収穫とも結びつき、自然に対する感謝や祈りがご先祖様に

感謝する気持ちにもつながって、お彼岸は大切な行事となりました。

彼岸には春彼岸と秋彼岸があります。それぞれ、春分の日(3月21日頃)、

秋分の日(9月23日頃)を中日とし、その前後の3日を合わせた7日間を彼岸といいます。